

モデル地区での体験型講座（R-DIG）の実施

目的

水害図上訓練(R-DIG)を実施し、避難体制の課題抽出および対策の検討を行い、地域防災力を向上させる。

方法

R-DIGとは

Disaster(災害) Imagination(想像) Game(ゲーム)の略であり、大雨によって自宅周辺が水浸しになり、近くの河川がはん濫する恐れがあるなどの災害を想定し、そのとき自分や地域(自主防災組織)は、どんなことをしなければいけないのか、地図を囲んでみんなで話し合うことである。

地図に書き込む内容

グループ毎に地図を配布し、災害時の避難場所や避難場所への経路、また災害時に危険となる場所(河川や水路、土砂崩れの危険がある場所)等を書き込む。

水防用・防災地図書き込み情報	
1 河川・池・沼	青色(太いまじっく)で塗りつぶし
2 堤防	茶色(太いまじっく)
3 水田	水色(細いまじっく)で周囲を囲み、縞目模様を入れる
4 主要な道路	黄色(太いまじっく)
5 鉄道	黒色(太いまじっく)
6 防災倉庫(水防倉庫)	黄色(シール)
7 橋	紫色(太いまじっく)
8 避難所	赤色(シール)

地区の水防用地図を作ろう	
1 いざとなったら逃げ込める、3層以上の建物	緑色(シール)
2 集積内水路	青色(太いまじっく)
3 大雨のとき水がたまりやすい冠水する場所	水色(太いまじっく)で周囲を囲み縞目
4 大雨のとき水がにまる冠水するアンダーパス	赤色(太いまじっく) ×
5 大雨で土砂崩れの危険性がある場所	茶色(太いまじっく)で周囲を囲み縞目
6 通学路、通勤路としてよく通る道	青色(太いまじっく)

※ 市指定の避難所が地図内に載っていれば、全て赤色(シール●)でマークする。

【図面に書き込む情報】



【R-DIG実施時の写真】



対応方針の検討

1.ハザードマップや浸水深の時系列変化等の情報を提供し、水害発生時の対応方法について、～の項目等について議論する。

ハザードマップや浸水深の時系列変化等の情報(守山市での事例)

想定被害

- ・北陸付近に停滞した梅雨前線が台風の影響により活性化し、滋賀県では断続的な豪雨に見舞われている
- ・最大1時間雨量は、80mm。今後最大24時間雨量は300mmを超える可能性がある。
- ・現在、市内各所で道路冠水や床上、床下浸水の被害あり。
- ・今後も被害が拡大することが予想される。

R-DIG実施者が置かれている状況

- ・今、自宅にいる。
- ・市から、避難勧告が発令されている。
- ・避難所周辺も昨日からの豪雨により、冠水しているとの情報もある。

水害発生時の対応方法についての検討内容

- このときあなたはどうしますか？
- 何か必要なものは、ありますか？
- 問題点は、ありますか？
- 日ごろからできることはありますか？

2.ここで抽出された課題を整理し、必要な対策について検討する。

～の質問に対して、付箋1枚に、1つの意見を記入し、R-DIGによって抽出された課題及び意見を可視化(文章化)によって整理する。



自助・共助を中心とした、適切な避難体制の構築に向けた検討を行う。



【R-DIG実施時の写真】

今後の予定

・平成22年度は、モデル地区として1地区で体験型講座(R-DIG)を実施する。

地域別避難判断資料の検討（湖辺域）

地域別避難判断資料の検討（湖辺域）

検討目的

琵琶湖洪水時の人の避難方法について検討する。

検討経緯

第4回湖辺域WGでの議論から琵琶湖洪水時における避難方法を検討することとなった。

第4回湖辺域WG内での意見(人の避難体制について)
 ・琵琶湖洪水について、人の避難に関しては新たな検討課題として協議会に提案し、検討を進めていくべきである。
 ・明治29年の浸水状況を踏まえて、人の避難について考えていけばよいのではないかと。
 ・河川と違い、琵琶湖は水位が上がるのが遅いので、まだ余裕があるのではないかと。

WG内での決定事項

・ワーキングメンバーでは、議案への対応に限定して検討を進め、人の避難については別のメンバーで検討する。
 ・当面は、人の避難状況に係らない項目について、畜産業への対応を検討していくことが了承された。



琵琶湖洪水対応の現状

琵琶湖湖岸に関しては、水防法第11条および気象業務法第14条の2第3項により知事および彦根地方気象台が共同して琵琶湖洪水予報を行う。

洪水予報の種類と基準

洪水予報の種類ははん濫注意情報(洪水予報)、はん濫警戒情報(洪水予報)、はん濫危険情報(洪水警報)、氾濫発生情報の4種類で、琵琶湖の5点平均水位(片山、彦根、三保ヶ崎、堅田、大溝の算術平均)を対象を基準として発表を行う。

はん濫注意情報

基準地点の水位がはん濫危険水位(警戒水位)に到達し、さらに水位上昇が予想されるときに発表する。

はん濫警戒情報

基準地点の水位がはん濫注意水位(危険水位)を超える洪水となるが予想されるとき、または、避難判断水位に到達し、さらに水位が上昇すると予想されるときに発表する。

はん濫危険情報

基準地点の水位がはん濫危険水位(危険水位)に到達したときに発表する。

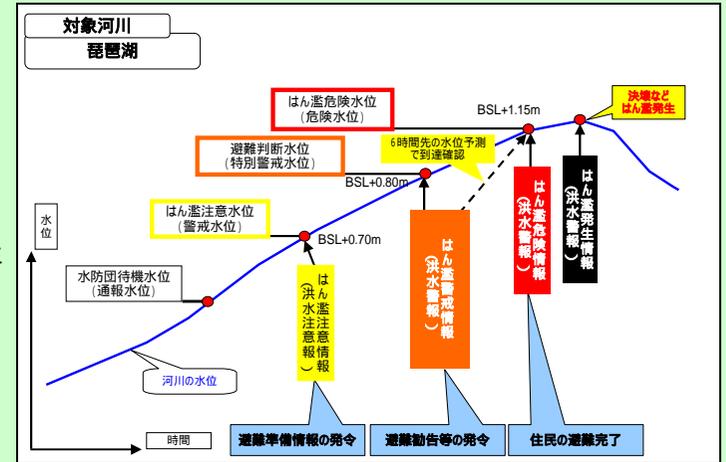
はん濫発生情報

琵琶湖でははん濫が発生したときに発表する。

前項の予報を行ったときは、直ちに直下水防管理者にその事項を通知する。

気象予警報未発表時に琵琶湖洪水予報を発表することが想定され、琵琶湖水位がBSL+0.5m以上で今後上昇する恐れがある場合には、水防本部及び各関係支部は、洪水予報の通知ができる体制を整える。

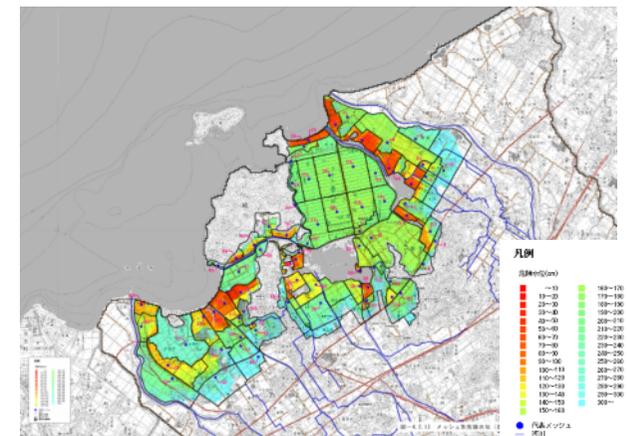
なお、水防本部は、この状況になった段階で、防災危機管理局および農村振興課へ連絡する。



【洪水予報のタイミング】

今後の予定

浸水が始まる琵琶湖水位や浸水深の時系列変化等の情報を基に地域ごとの避難方法について検討する。



【浸水発生時の琵琶湖水位】